

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会
第12回 維持管理・環境管理専門委員会 議事録

●平成27年12月18日（金）9:30～11:40、荒川太郎右衛門地区現地

【議事結果】

- ① 専門委員会の意見をもとに作成した「基本的な利用ルート」を現地を歩いて確認した。
- ② 全てのルートを「周遊」とする必要はなく、「行き止まり」のルートがあっても良い。
「周遊」ルートは、多くの人を訪れても良い場所とし、多くの人を訪れない場所は「行き止まり」としておくなどの方法がある。
- ③ 下池と中池をつなぐルートは、実施計画範囲に含まれず国有地ではないが認定道路であるため、アクセス路として活用したい。
- ④ 昨年度冬季の野火の跡地は、元の外来植生に戻っていることを確認した。このことから、今回の燃え方では、外来種抑制等の植生管理効果は認められなかった。
- ⑤ 上池旧流路と上池モトクロス場跡地 D の間の旧堤が崩れ、旧流路からモトクロス場跡地 D に洪水が流れ込んだことを確認した。旧堤は自然に崩れたため、人為的に復旧はしないほうが良い。
- ⑥ 今年度掘削している上池モトクロス場跡地 D の維持管理については、専門委員会で検討を行い、維持管理の試行企画を作成する。
- ⑦ 上池モトクロス場跡地 A で外来種樹木の伐採企画（上池モトクロス場跡地 A）の樹木の状況を確認した。作成した伐採企画案をもとに日程（1月中下旬予定）を委員長・事務局で詰めて具体化する。
- ⑧ 川島町の「かわじま輪中の里ウォーキング」のイベントで荒川太郎右衛門地区を歩いてもらうように働きかけたい。平成28年度は無理でも、平成29年度に実現したい。今年度秋のイベントで制作したスタンプを活用してラリーのような形で組み込むなど、アイデアを考えたい。

【主な議事内容】

●下池

- ・ これまでの意見をもとに整理した「基本的な利用ルート」の現地の状況を確認した。
 - 多くのルートが認定道路となっている。
 - 他にも認定道路があるようなので、水辺も含めて周遊できるように道路を整備してはどうか。
 - 全てのルートを「周遊」とする必要はなく、「行き止まり」のルートがあっても良い。
「周遊」ルートは、多くの人を訪れても良い場所とし、多くの人を訪れない場所は「行き止まり」としておくなどの方法がある。
 - 自然再生地であるので、自然への配慮が最優先事項である。一般の方が「周遊」するのはこれまでの案のルートを基本としておき、それ以外の道は「行き止まり」のまま自然観察時などに協議会として利用するくらいにしておくのが良い。
 - 次年度以降のハンノキ林の整備範囲へのアクセスについては、あらためて検討する。

- ・ 昨年度冬季の野火の跡地については、元の植生に戻っていることを確認した。このことから、今回の燃え方では、外来種抑制等の植生管理効果は認められなかった。
- ・ 大木（エノキ等）はシンボルともなるので残し、訪問者に見て頂けると良い。
- ・ コナラが生えていたが、太郎右衛門地区ではここだけと思われるので大切にしたい。
- ・ クワ畑のほうが、水田の跡地よりもいい環境になっている。
- ・ 認定道路は補助をもらっているので、自治体で管理しないといけない。自治体へ管理を働きかける必要がある。

●中池

- ・ これまでの意見をもとに整理した「基本的な利用ルート」の状況を確認した。
 - 下池と中池をつなぐルートは、実施計画範囲に含まれず国有地ではないが認定道路であるため、これまでの検討方針どおりにアクセス路として活用したい。
- ・ 赤城樋管の水路は水質が悪いためか魚が少ない。また、中池にはつながっているが、本川との間に落差があるので魚が登って来れない。

●上池

- ・ 上池旧流路と上池モトクロス場跡地 D の間の旧堤が崩れ、旧流路からモトクロス場跡地 D に洪水が流れ込んだことを確認した。旧堤は自然に崩れたため、人為的に復旧はしないほうが良い。
- ・ 今年度掘削している上池モトクロス場跡地 D の維持管理については、専門委員会で検討を行い、維持管理の試行企画を作成する。
- ・ 上池モトクロス場跡地 A で外来種の樹木を伐採する企画は、原案をベースに、日程（1月中下旬予定）を委員長・事務局で詰めて具体化する。

●その他

- ・ 川島町の「かわじま輪中の里ウォーキング」のイベントで太郎右衛門地区を歩いてもらうように働きかけたい。平成 28 年度は無理でも、平成 29 年度に実現したい。今年度秋のイベントで制作したスタンプを活用してラリーのような形で組み込むなど、アイデアを考えたい。
- ・ 次回の委員会は、上池モトクロス場跡地 A の外来樹木伐採イベントの後に実施する。

以上